

~~~~~  
研 究  
~~~~~

両親学級でのチャイルドシート指導

市川 知則¹⁾, 佐々木和枝²⁾, 廣田 恵美²⁾
森谷 美希²⁾, 榎本 裕香²⁾, 辻 敦敏³⁾

〔論文要旨〕

チャイルドシートの適正使用には、適切なシートの選択が重要である。われわれは平成19年1月から、出生前の両親学級においてチャイルドシートの購入アドバイスおよび後部座席シートベルトの着用指導を中心とした子どもの車内安全講習を開始した。20分の講義終了後にアンケート調査を行い、154組の両親から回答を得た。初産が92.1%、多胎が10.8%であり88.3%の家庭がチャイルドシート未購入であった。中古市場の利用を考えていた家庭が33.1%、後席のシートベルトが不十分だった家庭が81.2%であり、講義内容や配付したパンフレットには95%以上の家庭から良い評価を得ることができた。初産や未購入者が多く、運転に直接かかわる父親へ語りかけることができる両親学級は、指導の場として適当であると考えられた。

Key words : 両親学級, チャイルドシート, 購入アドバイス

I. 緒 言

2000年4月から道路交通法第71条3第4項により、6歳未満の乳幼児に対しチャイルドシート（以下CS）の装着が義務化された。しかし2007年の警察庁と日本自動車連盟による調査でも、1歳未満の乳児におけるCS適正使用状況は十分とは言えない¹⁾。また2006年のシートベルト着用状況の調査では、後席のシートベルト着用率が一般道で7.5%、高速道等でも12.5%と低いことがわかっている²⁾。

2002年から、われわれの施設では退院指導の一環として、退院する児の乗車中の安全を確保するために、CSの購入から装着にいたるまでの総合的なアドバイスを開始してきた。その中で、CSの適正使用には、まず適切なシートの

選択が重要であり、購入段階から、特に父親にアドバイスを行ってゆく必要性を認識していた³⁾。また、多胎などのケースには、より細かに対応することが求められた⁴⁾。

このような指導を行ってゆく中で、来院途中での交通事故により、シートベルトをしていなかった後席同乗の母親が重傷を負う事態を経験した。そこで今回われわれはさいたま市内で開催されるいくつかの両親学級において、米国で行われている0~16歳の車内安全講習（Child Passenger Safety⁵⁾）に準じ、CSの基礎知識や選択方法、後席同乗者のシートベルト着用指導に重点を置いた子どもの車内安全講習を導入した。そして、アンケート調査により本講習の意義を検討した。

Car Seat Guidance in the Prenatal Parents' Classes

〔1971〕

Tomonori ICHIKAWA, Kazue SASAKI, Emi HIROTA, Miki MORIYA, Yuka ENOMOTO, Atsutoshi TSUJI

受付 07.10. 9

1) さいたま市立病院周産期母子医療センター小児科（医師）

採用 08. 2.23

2) さいたま市立病院看護部（看護師）

3) 国際医療福祉大学附属熱海病院（医師）

別刷請求先：市川知則 さいたま市立病院周産期母子医療センター小児科

〒336-8522 埼玉県さいたま市緑区三室2460

Tel : 048-873-4111 Fax : 048-873-1770

II. 対象・方法

2007年1月から7月まで、さいたま市立病院で毎月開催される「両親学級」、さいたま市主催の多胎教室「ふたごっちクラブ」、赤ちゃん用品店主催で3か月毎に開催される両親学級「赤ちゃん大学」において、CSの選択基準と後

席同乗者のシートベルト着用を中心とした子どもの車内安全講習を行った。

両親学級の時間内に、われわれが作成したパンフレットを用いて約20分間講義を行った(図1, 2)。衝突理論や赤ちゃんの特徴などをふまえたCSの基礎知識を説明し、選択基準として木村らの指導法⁹⁾を参考に「車との適合

生まれてくる赤ちゃんのためにチャイルドシートを選びましょう



さいたま市立病院小児科 市川知則
NPO法人Childsafety.com エキスパートアドバイザー
日本交通安全教育普及協会 チャイルドシート指導員

チャイルドシートは赤ちゃんの命綱

時速50kmの正面衝突は、地上4階の高さから落ちたのと同じ衝撃です。きちんとしたチャイルドシートの使用で、初めて命が守られます。

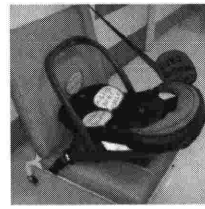


事故は身近に突然やってきます!

「私は安全運転だから」「すぐそこのお店までちょっと」と過信してはいけません。事故の多くは、運転を始めて30分以内、家の近所で起きています。

赤ちゃんの特徴

骨が柔らかく、関節もグラグラ、筋力も弱く、脳を守る頭の骨もまだ固まってません。衝撃のショックを肩や腰のベルト(ハーネス)では支えられません。背中全体で衝撃を吸収する、後ろ向き45度の「抱っこ型」シートがもっとも安全といわれ、アメリカやヨーロッパで普及しています。「ベッド型」は安全性が低く、特殊な症例をのぞいては使われていないようです。大人でも横になって車に乗るのは不快ですよね。



えらぶ基準

- 1. 車に合いますか? 残念な事に、車とチャイルドシートには相性があります。メーカーのホームページやお店の適合表で必ず確認しましょう。
2. 赤ちゃん用ですか? 年齢や体格に合わないものはダメ!! 首のすわっていない赤ちゃんが幼児用のシートにすわらされて、大けがをした赤ちゃんもいます。
3. 新しいですか? 安全のための品物です。素性の知れない中古品やオークションは止めましょう。安全基準が古かったり、説明書やパーツが無かったりします。
4. 簡単ですか? 重心が低くて軽いもの、取付けしやすいものが最適です。リクライニングやターン、フラットなどは安全性はかわらないばかりか、悪くすることもあります。値段が安くても良いものがありますよ。

双子・三つ子の赤ちゃんを予定するお父さんお母さんへ

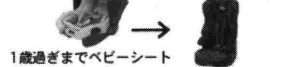
双子・三つ子(多胎)では、物理的に乗らなくなる事があります。もちろんカタログには全く書いてありません



おやおや、RV車にベッド型2台は無理です。助手席は絶対に取付けてはいけない場所です。

- 1. ベビーシートを選びましょう 乳児幼児兼用タイプやベッドタイプは大きく場所をとります。手軽な乳児専用ベビーシートを選択しませんか? (シートベルトの短い車ではつかないことがあります)

例えば その後は幼児専用



1歳過ぎまでベビーシート

- 2. 車は2列シート? 3列シート? 2台, 3台のチャイルドシートは想像以上に場所をとります。もし、今から3列シートの新車を購入しようと考えられるのなら、3列目にも大人がゆったり座れるものをえらぶふといと思います。中央がウォークスルーだと、なお良いようです。

軽自動車・小型乗用車・3ドアハッチバック車の場合



後ろ向きシートは前後に大きく張り出します。そのため、車内のスペースが十分にとれなくなり、運転しづらくなる場合があります。コンパクトなシートをお選びになることをお勧めします。3ドアハッチバック車では後席側面のドアが無いので、取付け作業に多大な影響をします。また赤ちゃんを抱っこしたままの乗車・降車も困難です。そのような面も十分に検討した上で、機種を選定して下さい。



ベビーシートと乳幼児兼用シートで、こんなに前後長が変わってきます。

- ベビーシートを選びませんか? 乳児幼児兼用タイプやベッドタイプは大きく場所をとります。手軽な乳児専用ベビーシートを選択しませんか? (ただし、写真のように、ベビーシートはシートベルトを長く使って固定します。そのため、シートベルトの短い旧タイプの車ではつかないことがありますので、ご注意下さい)

最後に

おかあさんはどこに座りますか?

赤ちゃんの横です。ちゃんとシートベルトをしてください。事故に遭ったときに、お母さんが怪我をされてしまったら、亡くなってしまおうと、残された家族が大変不幸です。必ずご自身の体も守ってください。



赤ちゃん誕生を機会に、もう一度家族全員で安全対策を見直しましょう 2007年

MEMO

Blank lines for writing notes.

図1 配付した資料(両面印刷して三つ折りとする)



図2 実際の講義風景

受講者にパンフレットを配付、モデルシートを提示しながら説明を行う。

性」、「子どもの体格との適合性」、「新品であること」、「簡単に取付けできること」の4点に集約し解説した。さらに多胎や小型車で注意点、後席同乗者のシートベルト着用推奨について説明を行った。講義後に参加者へのアンケート調査を行った。

Ⅲ. 結 果

期間中に、さいたま市立病院の「両親学級」で8回、「ふたごっちクラブ」で2回、「赤ちゃん大学」で3回の合計13回講義を行った。参加188組中156組の両親から回答を得ることができた(回収率83.0%)。自家用車を保有しておらず、CSを使用する予定のない2家庭を除外した154家庭で集計を行った。父親の平均年齢は33.3歳(24~46歳)、母親の平均年齢は31.3歳(22~40

歳)、平均在胎週数は30.0週(16~38週)。初産が92.1%、多胎は10.8%含まれた。88.3%の家庭がCSを未保有であった。

アンケート結果(図3)では、オークションや中古市場を利用しようと考えていた家庭が33.1%、講習を受けるまで後席のシートベルトが不十分だった家庭が81.2%であった。講義の内容が面白かったと答えた家庭が98.0%('とても'72.1%,'少し'26.0%)、CS購入の参考になったと答えた家庭が97.4%('とても'82.5%,'少し'14.9%)、パンフレットが見やすかったと答えた家庭が98.1%('とても'69.5%,'少し'28.6%)であった。

Ⅳ. 考 察

日本では2000年のCS法制化以降、さまざまな種類のCSが市場に出された。新生児に対応するCSとしては、乳児専用ベビーシート、乳幼児兼用チャイルドシート、チャイルドベッド型シートの3種類が主に販売されている⁷⁾。乗車する車、および児の体格に適合し、安全基準を満たしているものが最良のシートとなるのであるが、家族は売り場に並ぶ多種多様なCSとそれに関連する情報に翻弄され、何を基準に選ぶべきかを見失っている。今回の試みは、根拠に基づいて、簡潔に選択基準を説明することに主眼を置いた。

また、安全基準の進化もあまり知られていない。法制化当時の「2000年運輸省型式基準」、その後の「2003年国土交通省型式基準」と基準

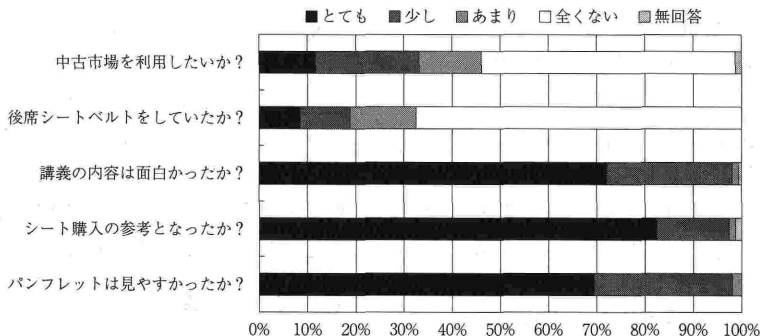


図3 アンケート結果

中古市場を利用しようと考えていた家族は全体の33%。
後席同乗者のシートベルトは82%で使用されていなかった。
講義の内容やパンフレットなどについては概ね好評であった。

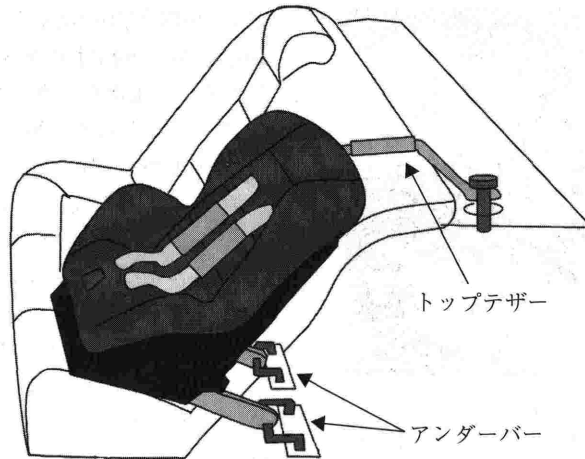


図4 ISOFIX システム

トップテザーとアンダーバーで簡便かつ強固に固定される。

は強化され、2006年10月から最も厳しい欧州基準である「ECE R44/04基準」の導入が開始された⁸⁾。2012年7月から完全施行されるこの基準は、年齢基準の統一化、衝突実験の判定方法の変更や後方衝突の導入、シートの材質やバックルの硬さ、これまで自動車メーカーによって異なっていたトップテザーやアンダーバーの仕様を統一化し、汎用性を高めた ISOFIX 規格(図4)の導入など、CS や自動車メーカーに対してより安全性や利便性を求めている。

中古市場は今回の調査では思ったほど浸透していなかった。これは初産の家族が多かったことに起因すると思われる。事故によって発生するすさまじい衝撃に対する安全性を考慮すると、新品で軽量、低重心、取付け容易なCSが選択されるべきである。それにもかかわらず、市場では高価で重く、大きく、多機能なCSが好まれる傾向にある。その結果として、使用しなくなったCSを買い取り再販する中古市場の存在が、ここ数年大きくなってきた。われわれの施設でも退院指導を行っているが、部品や説明書が欠け、安全基準の古い中古品を廉価で購入した家庭によく遭遇する。米国小児科学会では家族向けに中古CSの選択方法を規定しているが⁹⁾、国や学会からの指針がなく、リコールの情報も消費者に行き届いていない日本において、中古市場を利用することは勧め難いのが現状だ。

このような実情を理解してもらの意味でも、われわれはCS購入前からの家族への早期介入が必要であると感じていた。特に自動車部品の購入に関心の強い父親に情報を提供してゆくことが大切である²⁾。両親学級を機会とした今回の試みは、92.1%が初産、88.3%がCS未所有という絶好の機会となった。特にCSの選択がより困難となる多胎例には特別な指導が必要であり⁴⁾、個別のアドバイスをすることができた。講義内容やパンフレットも概ね好評であり、後席シートベルトの必要性も含め、家族全体で車内の安全を考えてもらう良い時間とすることができた。

一方、マンパワーの不足は大きな問題である。個人で行うには限界があり、その負担から長期間継続してゆくことは困難を伴う。小児科医による啓発活動¹⁰⁾とともに、小児科関連学会などによる指針の策定と、ビデオやDVD、ホームページといった電子媒体による情報提供の手段を整備し、より多くの場においてCSに関する最新の情報提供ができる体制を整えてゆくことが急務であると考えられた。

V. 結 論

CS購入を中心に、乗車中の家族の安全を認識してもらう場として、両親学級は良い機会であり、積極的に活用してゆくべきである。

文 献

- 1) 警視庁, 日本自動車連盟. 「チャイルドシート使用状況全国調査 (2007)」。2007. 警視庁.
- 2) 警視庁, 日本自動車連盟. 「シートベルト着用状況全国調査 (2006)」。2006. 警視庁.
- 3) 市川知則, 荻野和枝, 他. 周産期母子医療センター退院時のチャイルドシート装着に関する実態調査. 日本未熟児新生児学会雑誌. 2007; 19 (2): 238-244.
- 4) 市川知則, 荻野和枝, 辻 敦敏. 多胎児退院時のチャイルドシート指導. 小児保健研究. 2007; 66 (2): 331-336.
- 5) 山中龍宏. 母子保健—チャイルドシート. 周産期医学. 2006; 36 (12): 948-950.
- 6) 木村慶子. チャイルドシートの法制化と指導法. 小児科. 2001; 42 (2): 241-248.
- 7) 伊藤將史. インファントシートの着用指導とその注意点. ペリネイタルケア. 2000; 19 (5): 364-371.
- 8) 国土交通省. 自動車の年少者用補助乗車装置の認可に関する統一規定. 2006. 国土交通省.
- 9) American Academy of Pediatrics. Car Safety Seats: A Guide for Families 2007. (<http://www.aap.org/family/carseatguide.htm>)
- 10) 服部益治, 堅田泰樹, 土屋千枝, 他. チャイルドシートの正しい着用率アップのために. 小児保健研究. 2007; 66 (4): 592-594.

〔Summary〕

For the proper use of the car safety seat (CS), the choice of an appropriate seat is important. We started the lecture on child passenger safety with the points of CS purchase and seat belt fastening in the rear seat, 7 times from January in 2007 at prenatal parents' classes. Questionnaire surveys were performed in 188 couples of parents after the lecture and 154 answers were returned in total. The proportion of the first pregnancy was 92.1% and that of multiplets was 10.8%. There were 136 couples (88.3%) not possessed CS, 48 couples (30.8%) going to get CS at recycle market, and 127 couples (81.7%) not used the rear seat belt properly. We got a good evaluation from more than 95% of the couples to the lecture contents and the brochure distributed. Couples participating in prenatal parents' classes had high rate of first pregnancy, and therefore they had little knowledge and experience about the CS. Such classes are appropriate for an expert to advise with parents, especially fathers, on child passenger safety.

〔Key words〕

prenatal parents' class, car safety seat, purchase advice